



神楽島

長崎市立式見小学校
校長 中尾 善藏



教育週間がスタートしました

長崎県内では、6月末から7月の初めを「心を見つめる教育週間」としています。

本日、朝会を開き、「いのちの大切さ」についての話をしました。

- ・命はかけがえのないもの
- ・命の重みは みな同じであること
- ・命は自分だけのものではないこと
- ・命は 昔から現在、未来へ継いでいくこと
- ・笑顔の花咲く学校について

私たち大人は、人間にとて命ほど大切なものは他にないことを理解しています。

それは、これまで生きてきた中で、学校教育や家庭教育、地域の人々とのふれあいの中や体験活動の中で培われた結果であると思います。

「命の大切さ」の教育は、学校教育の核であるとされています。命があってこそ、つまり命を前提に、教育をはじめ人間の生活のすべてが成り立っていることは言うまでもありません。

子どもたちが生きるための知恵を学ぶ学校における命の教育は、私たち教員が担う重大な責務です。

空気や水と同じように、命は当然続くものであり、生きていることがあたりまえのことのように思い過ごしているのが普通であるからこそ、その教育には難しさがあります。

また、「命の大切さ」は体験的実感を通して育まれるとも言われます。

「命の大切さ」は単に知識として教えて育まれるものではなく、人と人、人と他の生物、人と自然との触れ合いの中で、人間の五感による体験的実感を通して育まれます。

何気ない、日々のちょっとした教育活動の積み重ねや、周囲からの愛情と信頼に満ちたかかわりが、「命の大切さ」を実感する心を育むものではないでしょうか。周囲の力で大事に育てられた子どもは、生きる喜び、つまり「命の大切さ」を実感する人間へと成長することにつながると信じています。

